

# いのち・発達を保障するということ

## 障害の重い子どもたちから学ぶ

第11回 コミュニケーションの基盤をつくる



埼玉大学  
細渕 富夫

ほそぶち とみお/埼玉大学教授、重度・重複障害児の発達と教育について研究。著書に『重症児の発達と指導』（全障研出版部、2009年）など。

### 特別支援学校の朝

ある日の特別支援学校。朝9時前に何台ものスクールバスが玄關脇の車寄せに到着します。そこには多くの先生が並んでバスの到着を待っています。先生が手を振ると、バスの窓越しに子どもたちの笑顔が見えます。学校に来たことがわかるのです。バスのドアが開き先生が乗り込むと、担任の先生を見つけた子どもたちの笑顔はさらに輝きます。

これはどの肢体不自由特別支援学校でも見られる朝の風景です。先生たちは一人ひとりに「おはよう」「調子よさそうだね」「元気ですか」等のことばを言いねいにかけています。子どもたちは「ことば」はわからなくても、抱っこされた感触、服のにおい、耳になじんだ声のトーン等で先生の存在を知

り、学校に来たことがわかるようです。こうして子どもたちは各クラスに移動し一日が始まります。教室への移動中も先生たちのことばがにぎやかに飛び交っています。ありふれた朝の一コマですが、このとき子どもたちと先生たちとの間にはさまざまなレベルでコミュニケーションが成立しています。

### コミュニケーションがとれない？

長期にわたり継続して濃厚な医療的ケアを必要とする重症児が増えています。この子らにとっては、痰の吸引、経管栄養、胃ろうなどは生活の一部になっています。加えててんかん発作をおさえる服薬等の影響があるため、この子らの教育活動に相当な困難が伴うことは、想像に難くありません。

特別支援学校で障害の重い子どもとかかわるとき、先生が

最も悩むことは「ことばがなく」「反応が乏しい」ため、子どもと通じ合えず「どのように働きかけたらいいかわからない」ということだと思います。しかし、「反応が乏しい」からといって、その子が「何も感じていない」「何もわかっていない」とは言えません。事実、こうした子どもたちの母親に尋ねると、ほとんどの母親は「私をわかっていない」と答えます。これを母親のそうに違いないという「思い込み」や「うあつてほしい」という「ねがい」や「期待」にすぎないと切り捨ててしまうことは簡単ですが、およそ子育てという営みが「思い込み」、「ねがい」や「期待」なしに行われているとは到底思えません。私は、母親をはじめとする養育者の「ねがい」や「期待」がその子の思いを受けとめ、共有・共感関係をづくりだし、その子の主体性を高め、豊かなコミュニケーションにつながっていくと考えています。

「反応が乏しい」とか「通じ合えない」という事態は、子どもの側の「コミュニケーション能力に問題がある」からだ、と言う人もいますが、これはそもそも先生と子どもとの二者関係において生じることです。その原因は子ども側の要因だけでなく、かかわろうとする教師の側の要因も含めて分析しなければなりません。

### 内面に寄り添い、主体性を育てる

重い障害があることによってコミュニケーションがとりにくくなる状況を子どもの立場から問題を整理してみます。

一つは、自分がいる周囲の情報を受けとめ、行動を調整することがむずかしいという問題です。冒頭に記した特別支援学校の朝の風景に見られるように、この子らの一日の生活の流れの特徴は、もっぱら他動的に動かされている、ということです。家から車いすに乗せられてバス停へ、通学バスに乗せられて学校へ、また車いすに乗せられて廊下を通過して自分のクラスに入ります。そして朝の健康チェックのあと朝の会が始まります。移動すること、水分や食事を摂ること、着替えること、おむつを交換することなど、基本的な生活のほぼすべてを周囲の大人の介護に頼っています。動かしにくい身体をもった彼らの一日は、基本的に他者によって動かされる受け身の生活の連続と言ってもよいでしょう。その結果、子どもの周囲はめまぐるしく変化していくこととなります。外界の変化を受けとめることが苦手な子どもたちにとっては、すべてが「いきなり」ということとなります。もちろん、ていねいなかわりを心がけている先生ならば、本人の思いを確認する、尋ねるようなことばかけをしているかもしれません。

「今どこにいるのか」「次はどこに行くのか」「かかわっているのは誰か」「今、何をするのか」「いつ終わるのか」、こうしたことがわからない生活はとても不安なものです。一つひとつの活動に、子どもの視点に立っていいいな「ことば」が必要なのです。子どもに伝えることを期待して、「次は体操だから、体育館に行くよ」「散歩に行こうか」「次はタイコをたたくよ」とことばをかけていくことによって、子どもたちは外界の変化を受けとめる準備ができるのです。こう